

アカデミープレジデント会合 (APM) の概要

日時：2020年10月5日 18:30 - 20:00

会場：オンライン (Microsoft Teams)

主催：日本学術会議

出席者：27名

(内訳) オーストラリア、ブラジル、ブルガリア、カナダ、フィンランド、フランス、ドイツ、インドネシア、韓国 (韓国科学技術アカデミー・大韓民国学術院)、マレーシア、メキシコ、モルドバ、モンゴル、ポーランド、スロバキア、スペイン、台湾、米国、英国、国際学術会議、インターアカデミー・パートナーシップ

共同議長：英国王立協会 ヴェンキ・ラマクリシュナン 会長
日本学術会議 梶田隆章 会長

テーマ：“新型コロナウイルス感染症からの持続可能でレジリエントな復興”

人類は自らが招いた気候危機に直面し、その影響はあらゆるものに及んでいる。世界各国は、新型コロナウイルスからの経済と社会の復興にあたって、資源多消費型の生産と消費への逆戻りか、持続的な環境と社会への移行かという選択を迫られている。万人にとっての持続可能でレジリエントな未来への移行を実現する鍵となるものは、技術的な解決策や政策決定者との対話を含めた科学の力である。

Summary of discussion:

梶田隆章会長より、開会挨拶を述べた。概要は以下の通り：

- 文明は人間や社会を発展させてきた。しかしながら、その文明が大きな影響力のゆえに、人類を、例えば COVID-19 のような、厳しい状況に追い込み始めている。これまで文明の発展に中心的力量を担ってきたのは学術であり、今回の危機を救うのもやはり学術であろう。

ヴェンキ・ラマクリシュナン会長より、開会挨拶を述べた。概要は以下の通り：

- 人類は常にパンデミックを経験してきたが、今日のパンデミックがなぜ更に深刻かという、我々が、社会的にも経済的にも地球規模でより相互に連携していることが要因である。我々はパンデミックに対抗するために国々を一つにするべきだ。
- 我々は、危機を浪費するべきではない。経済回復と公衆衛生回復の両方は、気候変動や生物多様性の損失など、他の同様に重要な課題に取り組むことによって私たち全員に利益をもたらす方法で向かい合う必要がある。

参加アカデミーの意見は以下の通り：

- 我々は持続可能な自然と人間を真に融合させる科学と社会科学を必要としている。SDG s の目標を見直し、COVID-19 からの公正な地球規模の社会経済の回復と SDG s の継続的な進展をサポートする優先順位を、明確にする必要がある。

- 我々にとって、科学アカデミーとして従事する、とても重要な機会がある。選択肢を持っている。社会は、高炭素経済の古い道に戻るか、低炭素の社会経済的な道を選択して、人間の健康を保護および促進し、パリ協定の公約と両立する回復の見通しを高めることができる。
- 教育は、知識に基づいた社会において重要な役割を果たす。危機的な時期の中でも、学校や大学が、教育的機能を果たすようが大切であり、よりレジリエントな教育制度が必要。
- 我々はある共通のテーマを持っているが、異なる多様な状況にある。現場の声を真に聴くことが大切だ。それらは、我々が多様性の中にある為、常にまとまっているのではない。
- 我々は、新薬の開発のみでなく、社会科学や他に貢献できることにも注力しなくてはならないそして、長期的な問題に取り組むためにどのようにそれらの様々な科学のより糸をつなぐことができるのか、見つけ出さなくてはならない。
- 我々は、COVID-19 からの回復が、アフリカ・アジア・南アメリカの3つの地域と連携することを忘れるべきではない。IAP や ISC を通して持っている地域ネットワークは更に価値あるものになる。
- ポストコロナ社会に向けて、不平等をなくし、生物多様性・水・土地を守り、真のグリーングリーン経済のために、科学的エビデンスに基づいて再構築された経済政策の新たなパラダイムが必要である。教育において誰一人取り残されないこと、そしてすべての人々が科学のための利益にアクセス可能であることを保証しなければならない。
- 我々はまだ危機を脱していない。そして COVID-19 を克服した際でも、未来には多くの危機があるだろう。それらにより良い準備をする一つの方法は、国際的に協力するための迅速な対応の科学者のネットワークを開発し、政治が科学に優先するのを防ぐことである。
- 今、これまで以上に、人間と動物の健康問題、および気候変動などの環境要因の交差点であるワンヘルスの概念を採用する時が来た。このコンセプトにより、我々はより回復力があり、より良い備えをすることができる。
- 科学への信頼が誤った情報と戦うことを可能にすることは、アカデミーにとって重大な役割である。科学的に読み書きのできる社会を促進し発展させることは、科学者としての我々の責任だ。科学を信頼することは、科学的証拠を開発するための前提条件である。

ヴェンキ・ラマクリシュナン会長は、持続可能な回復に向けた国際協調の重要性を強調し、相互のアプローチや地域の差異を認識することが大切であることを述べた。そして、科学者が自身で危機に直面することができない事実について述べた。公衆や政治家とともに取り組む必要がある。最後に、科学者は科学が前進であり、すべての人の利益になると主張する必要があることを指摘し、すべての危機は私たちが学ぶべき機会であると述べた。

APM での議論は精力的で有益であった。彼らはそれぞれのアカデミーのタスクに適切に取り組んでおり、多国間の強調の将来的な可能性に向けた道を整備する機会を得た。